

Open Portfolio Review

公開ポートフォリオレビュー

2025/08/02(Sat)・03(Sun)

41st / 2025

HIGASHIKAWA

INTERNATIONAL

PHOTO

FESTIVAL

写真の町東川町は第41回東川町国際写真フェスティバル「公開ポートフォリオレビュー」の参加者を募集します。皆様のご参加をお待ちしております。

公開ポートフォリオレビューとは

「公開ポートフォリオレビュー」は参加者が自身のポートフォリオを持ち込み、写真界・出版界の第一線で活躍する方に直接講評を受けることができる企画です。講評を受ける場としてだけでなく、作品をレビューに売り込み、レビューと今後のつながりを持つための場としてもご活用ください。今年も4名のレビュー者をお迎えし、1対1で20分間あなたの写真について様々なアドバイスをいたします。

開催日時

8月2日(土) 10:00～12:00 レビュー実施

8月3日(日) 9:50～11:00 レビュー実施

※ 両日9:30より会場にてチェックインと簡単なオリエンテーションを行います。

開催場所

東川町文化ギャラリー スタジオ 北海道上川郡東川町東町1-19-8

募集締め切り

7月18日(金)

募集定員

8月2日(土) 20名/8月3日(日) 12名

参加費

レビュー1名に対し/1,000円(1日あたり最大2名までレビューが受けられます。)

応募資格

年齢、国籍、プロ、アマを問いません。写真のジャンルやテーマも一切問いません。参加資格の目安としては一つにまとまった形の写真作品(ポートフォリオ等)を写真のエキスパート(ギャラリスト及び編集者など)にレビュー出来る方。

その他

参加者宿泊場所等のご案内について

- 参加者の方でご希望の方は会場近くの無料宿泊施設をご利用いただけます(8月2日夜の宿泊)。個室はございません。合宿形式(男女別相部屋)でのご宿泊となります。(素泊まり)なお、簡易宿泊所ですので多少の不便がありますことを予めご承知おきください。
- キトウシの森 きとろんの入浴券を販売いたします(500円)。数に限りがございますので、事前にお申し込みいただいた方から順に、お一人さま1枚まで頒布いたします。(8月2日夜には、入浴場所までの送迎バスがあります)

※ 宿泊、入浴券ご希望の方は参加申込フォームにて宿泊/入浴券購入希望の選択をお願いします。

※ 先着順のご案内となります。定員に達した場合、ご利用できない可能性があります。

※ 出展者の皆様には、ご自身でご移動についての手配、ご負担を行っていただきます。あらかじめご了承ください。

本件のお問い合わせ

東川町写真の町実行委員会事務局

東川町写真の町課写真の町推進室 / 写真の町東川町文化ギャラリー(担当:吉里・佐藤)

TEL: 0166-82-2111(内線591) Email: town.of.photo1985@gmail.com

レビュー者紹介

飯沢 耕太郎 IIZAWA Kotaro

写真評論家。詩人。きのこ文学研究家。1954年、宮城県生まれ。1977年、日本大学芸術学部写真学科卒業。1984年、筑波大学大学院芸術学研究科博士課程修了。現在、大阪芸術大学客員教授。東京総合写真専門学校などで講師を務める。主な著書に『写真美術館へようこそ』(講談社現代新書1996)、『私写真論』(筑摩書房2000)、『デジグラフィ』(中央公論新社2004)、『きのこ文学大全』(平凡社新書2008)、『写真的思考』(河出ブックス2009)、『きのこ文学名作選』(港の人2010)、『深読み! 日本写真の超名作100』(パイインターナショナル、2012)、『フングス・マギクス 精選きのこ文学涉獵』(東洋書林2012)、『キーワードで読む現代日本写真』(フィルムアート社、2017)、『旅と夢』(東京キララ社、2025)、『トリロジー 冬/夏/春』(港の人、2025)などがある。

楠本 亜紀 KUSUMOTO Aki

キュレーター。東京大学総合文化研究科博士課程満期退学。川崎市岡本太郎美術館学芸員を経て、フリーランスとして写真評論、キュレーション、編集などを行う。2009年から20年まで東川賞受賞作家展ディレクターをつとめる。2020年より愛知県にてオルタナティブスペースLandschaft主宰。哲学プラクティスや、アートを通じたまちづくり、聞き語りアーカイブなどにも関わる。現在、ゲストキュレーターとして、清里フォトアートミュージアム30周年記念展「写真と肖像」(~10/13)を企画する他、過去の企画に「肉体のシュルレアリスム舞踏家土方巽抄」展(第35回舞踊批評家協会賞)、編集・構成に『吉増剛造 表紙』(第50回毎日芸術賞)。著書に『逃げ去るイメージアンリ・カルティエ＝ブレッソン』(第6回重森弘淹写真評論賞)など。

高橋 朗 TAKAHASHI Sayaka

PGI ギャラリーディレクター。早稲田大学第二文学部にて平木収氏に師事。在学中、東川町国際写真フェスティバルにボランティアスタッフとして参加。その後、PGIにて写真の保存・展示に関する業務に携わる。2003~2010年まで同フェスティバル現場制作指導/アシスタントディレクターを務める。2010年からPGIのディレクターとして展覧会の企画運営を担当。石元泰博、川田喜久治など戦後日本写真を代表する写真家の展覧会などを手がける。また、若い才能を発掘することにも重きを置いている。

沈 昭良 SHEN Chao-Liang

1968年、台湾台南生まれ。台湾芸術大学応用メディア芸術修士。大手日刊紙「自由時報」写真記者およびチーフ・コンピナー、中央大学客員アーティスト、台湾芸術大学および台北芸術大学の准教授を兼任、「Photo ONE, Taipei(台北国際写真芸術祭)」の主催統括、第9・10期国家文化芸術財団理事などを歴任。現在は、写真/映像の教育・制作・評論・研究に従事しながら関連する国際交流を積極的に推し進め、ワークショップの開催や展覧会企画も行う。華梵大學写真/VRデザイン学科専任教授。'01年に初の写真集《映像・南方澳》を発表。その後も《玉蘭》('08)、《築地魚市場》('10)、《STAGE》('11)、《SINGERS & STAGES》('13)、《台湾綜芸団》('16)などの長編写真集を精力的に出版している。'00/'02年そして'12年と「行政院新聞局雑誌写真部門金鼎賞」を3度にわたり受賞。'04年日本「さがみはら写真アジア賞」、'06年韓国「東江国際写真フェスティバル海外作家賞」、'11年度アメリカニューヨーク「Artists Wanted 写真年度賞」、'12年アメリカ「IPA 国際写真賞プロセクションードキュメンタリー写真部門グランプリ」、'15年台湾「呉三連賞」、'24年「日本写真協会国際賞」など。

お申し込み方法

右記QRコード(<https://forms.gle/E6UDxVriesfDHQc97>)よりお申し込みください。その後、7月25日(金)に当日のスケジュール等について登録いただいたメールアドレスにお送りします。



※ 定員に達し次第、募集を締め切らせていただきます。

※ 申し込み後の辞退はやむを得ない場合を除きご遠慮願います。

※ 正常に申し込みが完了しましたらフォームの入力内容が登録いただいたメールアドレス宛に送信されます。



HIGASHIKAWA
THE TOWN OF
PHOTOGRAPHY